

令和4年度 全国学力・学習状況調査（6年生対象）の結果から

今年4月に6年生が行った「全国学力・学習状況調査」の結果についてご報告します。実施教科は国語・算数・理科の3教科で、その他に学習意欲や生活の諸側面等に関する質問紙調査が実施されました。

図1が全国平均と本校児童との比較、図2が神奈川県平均と本校児童との比較です。太い破線の円が全国平均、神奈川県平均を示し、円の外側へいくほど数値が高くなり、逆に円の中心に向かうほど数値が低くなっていることを示しています。今年度の神奈川県平均は、全国の平均正答率と比べてほぼ同等でした。

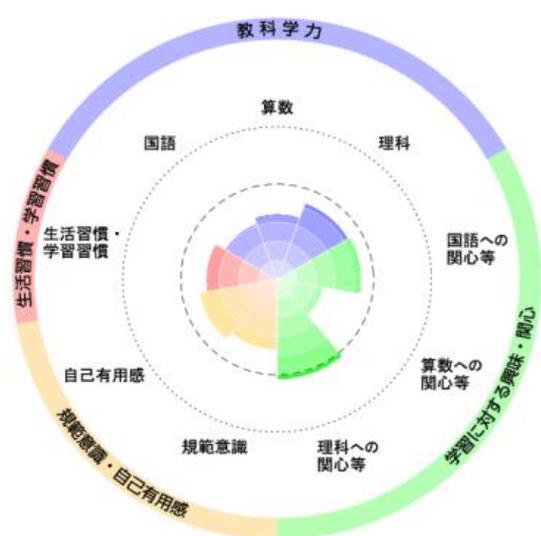


図1 「全国平均」との比較

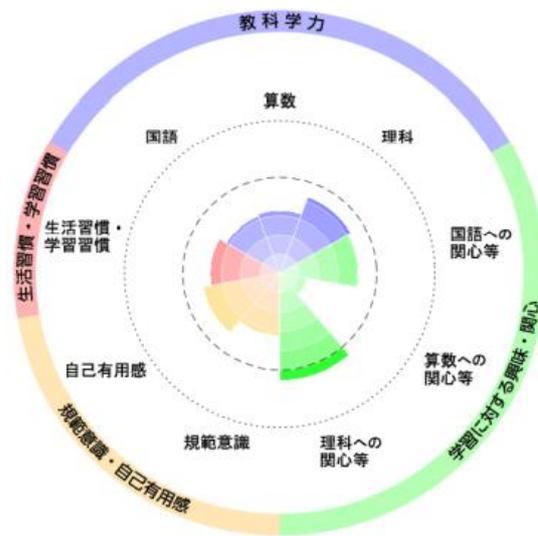


図2 「神奈川県平均」との比較

調査結果から、次のようなことが分かりました。

まず学力面については、学力が全国・神奈川県に追いついていないことが最大の課題です。しかしながら、理科への関心は高く、具体的な設問では「理科の勉強は好き」「授業の内容はよく分かる」ともに肯定的な回答が約70%を超えており、全国や神奈川県よりも高い結果でした。一方で、算数での肯定的な回答は全国・神奈川県平均よりも低い結果でした。算数少数指導や児童の困り感に寄り添った丁寧な指導により意欲の向上、学力の定着を図っていくことが必要であると言えます。今後は、学習習慣を身に付け、学力が向上するように、各ご家庭との協力を一層密にしていくとともに、今ある関心意欲を大切にしながら基礎的内容の定着を図っていくことが必要であると考えます。

学力以外については、自分は何かの役に立っているという自己有用感が全国基準より低い結果となりました。行事や学習に取り組む際に、児童自身で目標を設定し、その達成に向けてどのように努力したのかという過程を実感できることが大切となります。学校では、自分自身や周囲からも認められる環境を整えることに今まで以上に力を入れていきたいと考えます。また、「人の役に立ちたい」「友達と協力することは楽しい」と、人との交流のある活動を肯定的に受け止めている児童の割合がともに60%を超えていました。このことを生かし、学級活動に留まらず、なかよし遊びや委員会、行事など、様々な仲間との交流や最高学年として活躍できる場面を通して、有用感、達成感を感じられるようにする必要があります。
